

Japa Newsletter (毎月1日発行)



掲載写真募集中

INDEX

1. コラム：SNS・AI時代の思索
2. 寄稿：市場開拓協議会の活動（一般社団法人市場開拓協議会 事務局長 吉村 徳則）
3. 解説：データにみる2026年2月衆議院選挙
4. 関連情報：時代環境・地方創生・COVID-19・社会的孤立孤独・社会システム
5. 連携団体及びJapaからのご案内
 - ・（一社）レジリエンス協会主催「2026年3月公開研究会」
 - ・チームまちづくり後援「第8回未来まちづくりフォーラム」
 - ・J-SCORE主催「2026年3月度定例講演会」
6. 読者の声：第二の人生 生涯現役で行く その10（作詞・作曲家 高橋育郎）
7. つばやき（編集後記に代えて）

注：担当執筆者名の記載のない項目は、編集発行人(芝原 靖典)による。

※ 本NewsletterはJapa日本専門家活動協会が毎月1日発行の会員及び関係者向けのnewsletterです。1ヶ月後に当協会のHP <https://japa-fellowlink.wixsite.com/japa/newsletter> に公開しています。

◆◆ Japaからのお願い ◆◆

社会課題（社会的孤立・孤独・ひきこもり等）解決型のハイブリッドシステム（人間 with AI）の開発・普及を企画中です。レベニューシェアで共創いただけるAIエンジニア（フリー、副業等）の方で、ご関心のある方は、Japa事務局までご連絡ください。

1. コラム：SNS・AI時代の思索 (Japa日本専門家活動協会 代表理事 芝原靖典)

2026年2月衆議院選挙において、生成AI技術を活用したSNS(フェイクを含む)が溢れ、情報の真偽よりも「拡散力」「アテンションエコノミー」が民意を左右する現実を社会に突きつけた。

スマートフォンとSNSの急速な普及により、私たちの情報との付き合い方は根本から変わった。MMD研究所の調査(2024年、n=1万人)によれば、スマホ依存を自覚する人は62.5%に上り、女性10代ではSNS依存が84.8%に達する。34歳以下の1日の画面使用時間は平均8.8時間(理化学研究所、2024年)。短く手軽な情報が次々と流れ込む環境の中で、ひとつの問いをじっくり追いかける時間は、静かに、しかし確実に失われつつある。気づけば、「考えた気」になっているだけ、という事態が個人にも社会にも広がっているのではないかという疑問が湧く。

問題は「短さ」そのものではない。速度・量・アテンションを最優先するコンテンツ・情報の消費文化にある。アルゴリズムが作り出すフィルターバブルは視野を狭め、自分と似た意見だけが反響するエコーチェンバーへと人を閉じ込める。総務省(2023年)はこの現象が社会の分断を誘引し、民主主義を危うくすると指摘している。Gerlich(2024年)の研究は、AIへの思考の外部委託が習慣化するほど、批判的思考スコアが有意に低下することを明らかにした。

一方で、日本には固有の「短く深く」表現する文化的資産がある。それは「短詞型文学」であり、「コミュニケーション様式」と云える。俳句(17音)・短歌(31音)は、少ない言葉に豊かで深い意味を凝縮する技法を万葉集以来、千年以上かけて磨いてきた。2020年代の短歌ブーム(孤独感や刹那的な感情を31音で切り取る)もあるが、本質はまったく別のところにある。一文字変えるだけで情景が一変するという緊張感、「すべてを語らず余白で伝える」丁寧な推敲のプロセス—それ自体が、深い思索の実践にほかならない。しかし、断片的な情報消費が加速する時代には短歌が「ファストな感情コンテンツ」として消費されるリスクが内在する。

こうしたリスクを抱えるSNSに生成AIが組み合わされる時代(情報消費の加速化)が到来した。生成AIが情報処理と文章生成を代替する時代だからこそ、人間に固有の価値が問われる。AIの誤りを見抜く眼力、問いの精度を上げる構想力、異分野の知識を結びつける創造力—いずれも深い思索なしには生まれない。美馬のゆり氏(2025年)が説くように、知識の量より批判的評価と価値創造の力こそが、これからの時代に人間として、社会としての強みとなる。

Deep ResearchはAIで可能でも、価値創造的なDeep Thinkingは人間でこそ可能である。俳句・短歌・能・茶道等に体现される「わびさび」「余白」「間(ま)」といった美意識は、いずれも深い内省と感受性を前提とする。これらの日本固有の文化的遺産を次世代に継承するためにも、表層的な情報消費を超えた深い思索の文化的土壌を維持することが求められる。改めて、子どもの時から、日記を書く、俳句を一句詠む、長い文章を最後まで読みきる—そうした「言葉を吟味する習慣」を日常に取り戻すことから始めたいものである。速さと量は技術に任せ、深さと意味は人間が担う—その分業を社会の仕組みとしてデザインすることが問われている。

補：本コラムの参考資料等は<https://shikumi-gunzo.hatenablog.com/>、バックナンバーは<https://www.japa.fellowlink.jp/column>に掲載

2. 寄稿：市場開拓協議会の活動（一般社団法人市場開拓協議会 事務局長 吉村 徳則）

(1) はじめに

私は広島市在住の会員です。中小企業診断士資格を取得後、1985年に経営コンサルタントとして創業。早いもので40年にもなりました。1989年に(株)成研として法人化し、12名が所属しています。さすがにいつまでも最前線で活動とはいかず、2021年に取締役を退任。創業者ということで、個室をもらい相談役という役職でほぼ、毎日出勤しています。その活動と関係した一般社団法人市場開拓協議会(以下、協議会)について紹介させていただきます。

私の所属する(株)成研は、商業コンサルタントです。市場調査や商業施設の計画、街づくり、テナントリーシング(宅建業)などが主な業務です。そのなかでも少ないですが、商品開発業務と販路開拓があります。中小企業の多くは営業力が弱いのが実情です。そこでこれを支援する必要があると考え、営業支援の業務を始めました。しかし、相談は食品や機械からサービス分野と幅広く、とても1人で対応はできません。

これを何とかしたいと考え、仕事仲間の専門家やOB人材に声をかけ、2021年4月に商品開発と販路開拓の支援団体を創設したのです。そのメンバーには、大学名誉教授(工学博士)や弁理士、中小企業診断士などの専門資格者や経済団体の元役員、流通業界のOB、信用調査会社のOBなど多彩です。年齢は50代後半から最高齢は84才と、高齢者が多い状況です。そして、会社勤めではなく、自由業ばかりです。

(2) 活動内容

〔商品会議〕

商品会議という名の商品プレゼンテーションを行っています。これは、中小企業が開発した新商品やサービスの特徴を説明してもらいます。また、販売の状況についても聞きます。聞き終わると、会員から質問や提案が出ます。これで、課題の整理がつくと共に方向性が見えてくるのです。さらに、販路の開拓が可能な会員と企業がマッチングできれば、営業支援に進むことが出来ます。



商品会議(2025年7月29日)

そんなに成功例は多くありませんが、私は、金型メーカーが「痛くない耳かき」を開発したことを機に営業支援を行い、主に中国地方のドラッグストアなど量販店への販路開拓に成功しました。これは、(株)成研社員の人脈から、バイヤーにつないでもらったものです。

[異業種交流会 “フロンティアクラブ”]

コロナ禍の時期、人に会わない生活環境が続きました。これでは、新たな商談機会が生まれにくいです。また、人脈も広がりません。そこで、(株)成研でコロナ禍前に主催していた異業種交流会「フロンティアクラブ」を市場開拓協議会で引き継ぐこととしました。内容は、ビジネスセミナー1時間と、立食形式の名刺交換会を1時間行い、情報の提供と人脈の拡大につなげるというものです。

ちなみに、2026年1月22日に開催したばかりの会では、テーマ「過渡期にある広島市の小売商業と街づくり」。講師は、広島修道大学名誉教授の川原先生。これには協議会の会員を含めて48名が参加し、大いに盛り上がりました。



フロンティアクラブ
(2026年1月22日)

(3) 生きがい対策としての役割も

一般社団法人ですから、会を維持するために年会費を1万円ほど頂いています。また、法人であれば、納税の義務があります。利益無くして継続はありえません。しかし、リスクがない代わりに積極さに乏しいともいえます。

このことをどう見るか私なりに考えてみました。会員の多くは、リタイア世代です。若いころと違い、生き方が変わっているでしょう。少し古い資料ですが、参考になりそうな資料が見つかりました。内閣府「平成29年版高齢社会白書」です。この中の「高齢者のグループ活動参加による効果」(複数回答)に注目しました。回答の項目は8つほどありますが、第3位までに絞ると以下のとおりです。

- 1位 新しい友人を得ることができた (48.8%)
- 2位 生活に充実感ができた (46.0%)
- 3位 健康や体力に自信がついた (44.4%)

ひょっとすると、協議会は会員のために社会活動の場を提供しているのかも知れません。そのように考えてみると、気が楽になってきました。

補：寄稿のバックナンバーは <https://www.japa.fellowlink.jp/professional> に掲載

3. 解説：データにみる2026年2月衆議院選挙（Japa 日本専門家活動協会 芝原靖典）

2026年2月8日に執行された衆議院議員総選挙は、自由民主党が316議席（議席占有率68.0%）を獲得し、単独で憲法改正発議に必要な3分の2を超える歴史的な圧勝となった（候補者数が不足して失った14議席を足せば、実質330議席であった）。戦後初のケースである。改めて、総務省データ・各社出口調査・SNS分析等、データメインで今回の選挙結果を振り返る。

（1）当選者に関するデータ

〔選挙結果・当選者データ（総務省データ）〕

投票率は56.20%（前回比+2.8pt）。自民党は小選挙区で49.09%（前回比+10.6pt）、比例で36.72%（前回比+10pt）を獲得し、獲得票率を大きく上回る316議席（68.0%）と戦後初の単独3分の2超を達成した。18～19歳の投票率は43.11%と全体を約13pt下回った。

項目	データ	備考
有権者数	103,211,224人	—
投票率（小選挙区）	56.20%	前回53.42%
自民党得票率（小選挙区）	49.09%	前回38.46%
自民党得票率（比例代表）	36.72%	前回26.73%
自民党獲得議席率	68.0%（316議席）	戦後初の単独2/3超

〔当選者の年齢と多様性〕

当選者の平均年齢は54.7歳（前回比-0.9歳）。チーム未来が40.2歳と最も若く、自民（55.7歳）より10歳以上若い。新人当選者は106名（前回比+7名）。女性当選者は過去最高を更新したが、全体の12.3%にとどまる。世襲当選者111名のうち約9割を自民が占める。

（2）投票行動・世代別支持データ

〔世代別比例代表投票先（朝日新聞の出口調査）〕

全年代で自民党が首位。前は若者・現役世代が敬遠していたが、今回は回帰。デジタルネイティブ層（今回は18～40歳代）は今後、高齢層にシフトしていくので、その影響度も増す。

世代	自民党	中道改革連合	傾向
18-29歳	34～38%	10%未満	最低支持率ながら全世代で自民首位
30歳代	約36%	10%未満	中道支持は1割未満
40歳代	約38%	10%未満	中道支持は1割未満
50歳代	約40%	12～15%	中道支持がやや上昇
60歳代	約42%	15～18%	両党とも最高値を記録
70歳代以上	約40%	18～22%	中道支持が最も高い世代

4. 関連情報：時代環境・地方創生・COVID-19・社会的孤立孤独・社会システム

[時代環境]

- ▼2026/02/26 人口動態統計速報（令和7年12月分）（令和7年1月～12月速報の累計）厚生労働省 <https://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/jinkou/geppo/s2025/dl/202512h.pdf>
- ▼2026/02/26 高市首相の全閣僚への共通指示と個別の指示の内容…第2次内閣発足に合わせた指示書の全容判明 読売新聞 <https://www.yomiuri.co.jp/politics/20260219-GYT1T00293/>
- ▼2026/02/25 迫るAI社会と主要業界の変貌：AIによる破壊と創造 pwc <https://www.pwc.com/jp/ja/knowledge/thoughtleadership/ai-society-industry-shift.html>
- ▼2026/02/17 国連社会開発世界サミットで Beyond GDP の議論が進展 ～中間報告を公表～ 第一生命経済研究所 <https://www.dlri.co.jp/report/ld/575758.html>

[地方創生・日本創生]

- ▼2026/02/20 海底ケーブルの防護及び強靱化をめぐる動向 国立国会図書館 調査及び立法考査局 <https://dl.ndl.go.jp/view/prepareDownload?itemId=info:ndljp/pid/14631816>
- ▼2026/02/20 なぜ宮崎牛はドバイを選んだのか。地方産業が世界市場で生き残る条件 | Forbes JAPAN <https://forbesjapan.com/articles/detail/92040>
- ▼2026/02/20 報告 縮小社会を前提とした持続可能な国土・地域を構想するために 日本学術会議 <https://www.scj.go.jp/ja/info/kohyo/pdf2/kohyo-26-h260220.pdf>
- ▼2026/02/03 地方はいまだに江戸時代。山本蓮が明らかにする「地方の呪縛」 WOMEN AWARD Forbes JAPAN <https://forbesjapan.com/articles/detail/90189>

[COVID-19]

- ▼2026/02/12 新型コロナ後遺症の病型分類と経過予測、潜在推移解析で実現 <https://academia.carenet.com/share/news/6a684d24-0300-4e18-92d8-db6a4f00a45e>

[社会的孤立・孤独・ひきこもり]

- ▼2027/02/27 孤立死やごみ屋敷の背景にある「セルフ・ネグレクト」について 東京市町村自治調査会 <https://www.tama-100.or.jp/cmsfiles/contents/0000001/1385/selfneglect.pdf>
- ▼2026/02/18 神経科学者が警告「ふれあいが減る時代に人間の脳は追いついていない」 | クーリエ・ジャポン <https://tinyurl.com/286y34tw>
- ▼2026/02/10 <プレスリリース> 独り好きの人は仲間はずれにどう反応するのか？—孤独を好む人は、社会的痛みの処理が異なることが明らかに— 地方独立行政法人 東京都健康長寿医療センター研究所 <https://www.tmghig.jp/research/release/2026/0210.html>
- ▼2026/02/05 厚生労働省「肝煎り」の福祉事業が失速？（上）—「制度の狭間」対応の重層事業、自治体交付金が大幅減、政府文書による経緯の検証 | ニッセイ基礎研究所 <https://www.nli-research.co.jp/report/detail/id=84614?pno=1&site=nli>

[社会システム]

- ▼2026/02/20 世代間正義の二つの顔——存続的正義と分配的正義の文化横断的分析 キヤノングローバル戦略研究所 https://cigs.canon/article/20260220_9719.html
- ▼2026/02/09 現場を疲弊させる官僚組織の構造的病理 | 研究プロジェクト | リクルートワークス研究所 <https://www.works-i.com/research/project/bullshit/fight/detail006.html>

※特定テーマ・分野に係る情報のキュレーションの要望があればご連絡ください。

5. 連携団体及び Japa からのご案内

▼ 連携団体の(一社)レジリエンス協会主催「2026年3月公開研究会」のご案内

- ・ テーマ：インクルーシブ防災と地域コミュニティのあり方について
- ・ 主催：一般社団法人レジリエンス協会、京都市（共同開催）
- ・ 開催日時：2026年3月5日（金）13：00～15：30
- ・ 会場：京都市役所本庁舎4階北東会議室からオンライン配信
- ・ 一般公開：参加費無料
- ・ 詳細及び参加申込：Peatix 経由申込 <https://rrcj-japan-20260305.peatix.com/>
直接申込み <https://resilience-japan.org/contact>

▼ 連携団体のチームまちづくり後援「第8回未来まちづくりフォーラム」のご案内

- ・ 主催：未来まちづくりフォーラム実行委員会
- ・ 開催日時：2026年3月12日 10:00～18:30
- ・ 会場：SHIDAX カルチャーホール
（渋谷区神南1-12-10 シダックスカルチャービレッジ8）
- ・ 開催形式：ハイブリッド方式（会場 X オンライン）
- ・ 参加費：無料（事前登録制） ※但し、第3部懇親会参加の方は1,100円（税込）
- ・ 詳細及び申込：<https://miramachi.jp/>

▼ 連携団体の J-SCORE 主催の「2026年3月度定例講演会」のご案内

- ・ 開催日時：2026年3月28日（土）13：30～17：00（受付開始：13：00～）
- ・ 会場：J-SCORE 事務所+Zoom オンライン
八重洲事務所（〒103-0028 東京都中央区八重洲1-7-20 八重洲口会館 B2F）
- ・ 参加費：会場参加 J-SCORE 正会員：1000円 メール会員&一般参加者：2000円
Zoom 参加 J-SCORE 正会員：無料 メール会員&一般参加者：1000円
- ・ 申込方法：<https://j-score.or.jp/>

▼ Japa Newsletter 掲載写真の募集

Japa Newsletter の冒頭に掲載する写真を読者の皆さまから募集しています。

掲載を希望する写真（著作権所有／フリー）がありましたら、画像 file をキャプション付きで事務局までお送りください。Japa Newsletter 編集仕様に則り掲載いたします。ただし、掲載希望多数等、事務局の判断で掲載できない場合がございます。

▼ Japa 日本専門家活動協会の会員募集

Japa は、会員（個人）と連携団体の方々の参加と協働により活動しています。

Japa は、随時、会員 [正会員、一般会員] を随時募集しています。

▶ 入会案内の詳細 <https://www.japa.fellowlink.jp/admission>

6. 読者の声

[第二の人生 生涯現役で行く その10]

(作詞・作曲家 高橋育郎)

歌の会が各地に広がる

円熟倶楽部が終わって、その煽りがあったのか。歌の会が広がった。

始めは東瀧代表の計らいだ。新聞の投書欄に「近頃は童謡を知らない人が増えてきた。当園でも保母さんたちが知らない有様だ。何とかしたい」という趣旨のことが載っていた。そこで代表は新聞社に電話をしてみてもとのこと。私は早速電話して教えられた電話番号に電話した。

埼玉県朝霞市で保育園をやっている方だった。そこで言うには、近々当園は運動会をやるので来てくださいとのこと。当日、私は教えられたとおりに出掛け園長は喜んで迎えてくれた。そして隣の席に座らせてくれた。運動会が終わると園長は「私はメダカが好きで飼っているが『めだかの学校歌の会』の童謡の会をやりたい」とのことです。ところで童謡「めだかの学校」は茶木滋作詞、中田喜直作曲。そこで両家に電話して許可を得た。

会は月に一回を定例として行い、最初は園児を対象にしたが、時間がうまくかみ合わなくなり、父兄と一般を対象に切り替えた。

園庭にはオリーブの木が6本ほどあり、スイスから贈られた「平和の鐘」があった。園児が朝と昼に鳴らしていた。そこで「オリーブの鐘」の歌を依頼され作詩作曲した。発表会を開き、園児が歌った。以後、園児は毎朝歌うようになった。翌年の運動会では振り付けも付けられ、更に「桃太郎さん音頭」にも振り付けが付いて園児が歌い踊った。これを或るテレビ局が取材し、「桃太郎の起源」という番組で放送した。司会は佐藤B作さんだった。

ところで、3年目に当園は市営に切り替わり、歌の会は市内のカラオケ喫茶に場所を変えた。会員は15人ほどになっていた。そして当会は通算10年間行われて閉幕した。

次は11年4月。荒川区町屋の「ぬりえ美術館」にて「ぬりえ童謡の会」が始まった。これは山岡鉄舟研究会会長の山本氏のご配慮の賜物だ。当美術館の館長金子さんは、山本氏と同じ職場の上司と部下の間柄だった。上司に当たる山本氏は、ぬりえと童謡は共通するところがあるとの思いから、私に会を勧めたのだった。この会は、会員数が15人ほどだったが、9年間行われた。「ぬりえ」は、昭和15年に蔦谷喜一によってはじめられ、私も子どものころ、よく塗って遊んだものだった。金子さんは、蔦谷喜一と親戚と聞いていた。

それから18年には、西新宿JTBカルチャーサロン「愛唱歌を歌おう」の講師になった。ピアノ伴奏は童謡協会の三平さんが担当。一年後、家庭の都合で辞め、そのあと日本橋社会教育会館館長の斡旋で、川俣ひとみさんに受け継がれ二年間行い、3年間をもって、当サロンは終了した。その間、読売カルチャーセンターから要請があったが、会場が春日部と遠く、お断りし、童謡協会に相談した結果、蔵田さんが代行してくれた。

それから日本橋社会教育では毎年サークル発表会を行っていたが、14年2月に実行委員に任命され、令和3年10月、コロナ禍で私の会が終わるまで続けた。

藤沢市老人施設にて歌の慰問巡回

LVC セミナーで施設長の講演があって、鈴木氏の知り合いだったことから紹介されて、歌の慰問が 15 年に始まった。藤沢駅前に本部があって、施設は江ノ電沿線に 3 つと山側に二つあって、不定期ながら二年間ほど巡回した。中に「リーラの家」という施設があり、ここのテーマソングを依頼され、作詩作曲した。3 年ほどやっていたが、鈴木氏が体調を崩し、止めることにした。

川田正子とのエピソードを二つ

15 年 3 月。横浜市金沢公会堂にて門口氏の「かなざわ会」が主催し「川田正子と志茂田景樹」ショーを行い、私の歌の会も共演した。

17 年には「河合隼雄文化庁長官と川田正子ジョイントコンサート」が舞踊家里見香華主催で館山市南総文化ホールにて開催。私も呼ばれ同行した。館山駅に着くと出迎えの町民が改札口前から駅前広場までぎっしり埋め尽くし、迎えの車まで辿りつくのに大変なさわぎになった。コンサートは無事終わったとき、長官は至急戻るようにとの電話で急ぎ帰って行った。翌日はいちご狩りが予定どおり行われた。その夜はホテルに泊まり朝食後、川田さんと知人も一緒に帰路についた。いちご狩りでは、記念撮影を行ったが、楽しい思い出になった。

川田正子の訃報

平成 18 年、一月下旬に新聞訃報欄に川田さんの訃報が載った。私は驚いて息子さんへ電話した。実は 5 日ほど前に川田さんから「これから九州へ巡業で出かけてきます」と電話を頂いた。私は、川田さんが出かけているとき、LVC の仲間 5 人程と浅草へ遊びに行った。夕方から雪がちらついてきて、急に寒くなった。夕食も急ぎすませて帰宅した。そして翌朝、訃報に接したのだ。71 歳だった。

息子さんの話によると「母は帰宅すると『寒い 寒い』といいながら、夕食もしないで、すぐお風呂に飛び込んだ。風呂場で何か音がして、父が聞きつけ覗いてみたら、母が倒れていたの、直ぐに救急車を呼んで、病院へ行ったが、行きつく前に息を引き取った」とのこと。いわゆるヒートショック死だったのだ。

葬儀は芝の増上寺で行われ参列した。そして孝子さんをはじめ、ご親族の方にご挨拶した。更にお墓参りをした。但し、墓碑には、まだ名前が刻まれていなかった。誠に惜しまれてならない。
(続く)

7. つぶやき（編集後記に代えて）

衆議院選挙、冬季オリンピック、中国の圧、米国の圧等々、疾風のごとく 2 月が過ぎた。「疾風に勁草を知る」という言葉を想起する。現代風に表現すれば「レジリエンス」である。深く広く思索し、本質を知り、先を見通すことで、そうしたしなやかさが得られるが、・・・。

編集発行人：Japa 日本専門家活動協会 代表理事 芝原靖典

発行元：Japa 日本専門家活動協会 <http://www.japa.fellowlink.jp/>

問合せ・連絡先：info@japa.fellowlink.co.jp